

# 第73回（2024年度）全国社会科教育学会 全国研究大会のご案内

大会テーマ：社会科教育研究における理論と実践の関係を問い直す

2024年5月31日

全国社会科教育学会会長 梅津 正美  
第73回全国研究大会実行委員長 溝口 和宏

新緑の候、会員のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、第73回（2024年度）全国社会科教育学会全国研究大会を下記の要領にしたがって開催する運びとなりました。会員の方々はもとより、社会科教育に関心をお持ちの会員以外の方々にも、広くご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

## I 大会要項

- 主 催 全国社会科教育学会
- 後 援 鹿児島県教育委員会，鹿児島市教育委員会，鹿児島県小学校教育研究会社会科部会，鹿児島県中学校教育研究会社会科部会，鹿児島県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会，日本教育大学協会社会科部門（申請中）
- 期 日 2024年10月12日（土），13日（日）
- 場 所 鹿児島大学教育学部（郡元キャンパス）
- 日 程

### 第1日 10月12日（土）

8:30	9:00		12:10	12:20	13:20	13:30		16:30	17:30
受付	自由研究発表	移動	昼食	移動	シンポジウム※1	総会※2			
			理事会						

### 第2日 10月13日（日）

8:30	9:20	9:30	11:30	11:40	12:40	12:50	14:20	14:30	16:00
受付				昼食				研究委員会 地域連携 プロジェクト※1	
ブック トーク カフェ	移動	課題研究	移動	若手の ランチ ミーティング	移動	自由研究発表	移動	国際委員会企画 ラウンドテーブル	

※1：オンラインで同時無料公開します。※2：昨年度研究奨励賞受賞者のスピーチがあります。

## II 大会企画

第73回大会は、「シンポジウム」・「課題研究」・「自由研究発表」・「若手のランチミーティング」・「ブックトークカフェ」・「地域連携プロジェクト」・「国際委員会企画ラウンドテーブル」で企画を構成します。「自由研究発表」と「ブックトークカフェ」はエントリーを受け付けます。エントリーを希望される方は、後述の要領にしたがってお申し込みください。

### 1. シンポジウム

#### 社会科教育研究における理論と実践の関係を問い直す

社会科教育学研究ではこれまで、社会科でこそ育むべき資質や資質形成の方法を究明するため、社会科教育固有の「理論」の構築が目指されてきた。具体的には、「目標—内容—方法を貫く、認識形成や資質育成の論理を究明する」という方法論をもとに、目標論、カリキュラム編成論、授業理論を抽出する分析研究や、仮説的に構築された授業理論をもとに特定の主題を扱う単元の開発を通して、授業モデルを提示する開発研究が展開され、いわゆる「社会科学科」「社会問題科」「社会形成科」といった教科論や、「理解」「問題解決」「説明」「意思決定」などの多様な社会科授業理論の型が解明されてきた。そのことは、学習指導要領社会科を批判・相対化し、既存の社会科教育実践を改善する大きな力となってきたと言えるだろう。一方で、近年においては、どの学校や教室、子供たちにおいても一定の有効性を持ちうるものとして仮定されてきた社会科教育の「理論」それ自体の有効性や意義に対する疑問や揺らぎが生じている。様々な背景・状況を抱える子供たち、学校や教室、地域の社会文化的文脈を考慮した社会科教育の実践と、それを支えることのできる「理論」が求められている。

これらを鑑みると、社会科教育学の固有の理論（教科論・授業理論）の確立を図ってきたことは、成果を生む一方で、今日の状況下でよりよい実践を展開し、実践を改善する上での難しさを生んでいないか。さらには、社会科の固有性に拘ることが「理論」そのものの捉えを固定化させ、それを柔軟に更新することの難しさも生み出してはいないか。結果として、社会科教育の研究は、21世紀の社会で求められる市民育成という課題に十分に対応しきれなくなっているのではないか。

こうした問題意識に立ち、シンポジウムでは、よりよい社会科教育実践の創出という視点から、教科論や授業理論に止まらず、広く社会科教育を取り巻く理論と実践の関係性を捉え直し、今日求められる理論の在り方について、多様な立場や広い視野から議論する場を設けたい。各々の理論的立場を持ち、かつ社会科教育実践をよく知る方々に登壇頂き、ご自身の研究の立場やこれまでの経歴・研究もふまえながら、社会科教育における理論と実践の関係性についての捉えや、今後、よりよい社会科教育実践を生み出すために求められる理論と実践の関係性、理論の更新の在り方を論じて頂く。とりわけ以下の論点について参加者とともに議論を深めていきたい。

- (1) 社会科教育の研究において、「理論」と「実践」の関係はどのようなものとして捉える必要があるか。
- (2) よりよい社会科教育実践の在り方を考える上で、従来の研究において作り上げられてきた「理論」は依然、有効性を持ち得ているのか。どのような意味で有効性を持ち得ており、課題があるとすればどのようなところか。
- (3) 社会科教育の研究において、今後はどのような「理論」あるいは、どのような「理論」の捉えや理論の更新が求められるか。それはなぜか。

シンポジスト

小貫 篤（埼玉大学）

池尻良平（広島大学）

田本正一（山口大学）

岩野清美（北九州市立板櫃中学校）

コーディネーター兼指定討論者

唐木清志（筑波大学）・石川照子（三重大学）

コーディネーター

溝口和宏（鹿児島大学）

※本シンポジウムは、オンラインで同時無料公開します。

## 2. 課題研究

### 課題研究Ⅰ 実践者と研究者のコラボレーションは社会科教育研究をどのように拡張するか

社会科教育研究において、実践と研究は切っても切り離せるものではないが、そのどちらに重きをおいて自身の活動を位置付けるかによって実践者と研究者という立場の違いが存在してきた。線引きすること自体が正しくないという考えもある一方で、実践者と研究者という違いを積極的にうまく活用することで、実践と研究を加速させ、成果を価値のあるものにできるのではないかという考えもある。

本課題研究では、実践者と研究者のコラボレーションに注目することで、その関係(実践者と研究者の関係に加えてそこにおける実践と研究の関係)として、どのような可能性があり、それが社会科教育研究にどのように寄与し得るのかについて議論したい。論点として次の3つを設定する。①コラボレーションを進めるための動機やその条件とはどのようなものなのか?②コラボレーションを進める中でどのような飛躍やつまづきが存在するのか?③コラボレーションの成果はどのように語られるべきで、我々はどのように聞くべきなのか?これらの点を中心に登壇者にはそれぞれご発表いただき、それを基に指定討論者やフロアの方々と議論を進めていきたい。

コーディネーター兼指定討論者 星 瑞希(北海道教育大学)

コーディネーター 福井 駿(鹿児島大学)

### 課題研究Ⅱ 教師教育において社会科教育学の理論と実践はどのような関係を持つか

社会科教育学研究は、これまでに多くの社会科教育の授業理論やその理論に基づく実践を生み出し、その妥当性を議論することで発展してきた。そこには、社会科教育学の理論と実践についての研究を積み重ね、アップデートしていくことで、教師の社会科授業がより洗練されていくという暗黙の前提があったように思える。しかし、実際の教育現場において社会科教育学の理論と実践のフレームワークを教師がどこまで理解しているのかを考えると、その研究成果は十分に社会科教師に還元されているとは言い難い。そのような状況を踏まえると、研究者としてだけでなく、教師教育者として社会科教育学の理論と実践の関係を考えることは重要であろう。

本課題研究では、学部教員養成、教職大学院、教員研修という教師教育の各現場に焦点をあてる。それぞれの場において、教師教育者が①社会科教育学の理論と実践との関係をいかに捉え、②どのように接続しようとしており、③そこにはどのような課題が存在しているのかについて掘り下げる。発表者・指定討論者間だけでなく、フロアの方々と課題の共有や改善方法について議論していくことで、教師教育において社会科教育学の理論と実践はどのような関係を持つかに対して、社会科教育研究上の展望を開くことをめざす。

コーディネーター兼指定討論者 山内敏男(兵庫教育大学)

コーディネーター 岩崎圭祐(鹿児島大学)

### 課題研究Ⅲ 社会科教育史研究において理論と実践はどのように語られてきたのか

本課題研究のテーマは「社会科教育史研究において理論と実践はどのように語られてきたのか」である。社会科教育史を紐解くと、これまで多様な優れた理論と実践が誕生してきたことがわかる。戦前・戦後・外国の理論と実践に関する社会科教育史研究は数多く行われてきた。他方、それぞれの研究領域を包括するような枠組みが提示されてきたとは言い難い。このような背景を踏まえ、本課題研究は各領域を包括するための試みとして、議論を進める。

本課題研究では、論点として次の3つを設定する。①社会科教育史研究の対象として特定の理論と実践を選択した動機は何か。②対象となる理論と実践に関する先行研究の意義と位置づけは何か。③対象となる理論と実践に関する研究領域の成果と課題は何か。上記の論点に沿って、登壇者にはそれぞれの立場からご発表いただく。指定討論者との問答をもとに、論点を整理しながらフロアの方々と検討していきたい。検討した内容を踏まえ、社会科教育史研究の今後の展望を開くことをめざす。

コーディネーター兼指定討論者 永田忠道(広島大学)

コーディネーター 大野木俊文(鹿児島大学)

### 3. 自由研究発表

分科会ごとに、発表 20 分・質疑応答 10 分の枠内で、スライドやレジュメを用いて研究発表を行います。ご自分の研究成果について、参加者から多くの意見をいただきたいという方、参加者と意見交換をしたいという方におすすめてです。

### 4. 若手のランチミーティング

若手が互いの研究について情報交換をしたり、研究のためのネットワークを拡大したりすることを支援するために企画しました。本大会では、年齢が 40 歳未満または、大学院生（修士課程、教職大学院、博士課程等）、あるいは学位（修士号・博士号）取得後 8 年未満の方を若手とします。申込者がグループに分かれ、昼食をとりながら意見交換を行います。

### 5. ブックトークカフェ

応募した発表者が、指定された時間（1 件につき 50 分）を自由に使って、発刊済みの書籍、近々発刊予定の書籍について語り合う会を催します。ご自分の出版された書籍を多くの方に手に取ってもらいたいという思いを持っている方、これから出版される書籍のことを多くの方に知ってもらいたい方におすすめてです。飲食は、ご自由にどうぞ（コーヒーを無料で提供します）。

※「自由研究発表」「ブックトークカフェ」は、個人研究、共同研究の別は問いませんが、筆頭発表者の方は会員に限ります。「ブックトークカフェ」の場合は、申込時に発表題目の代わりに、書籍のタイトルをご記入ください。「若手のランチミーティング」に参加できるのは、会員のみです。

### 6. 研究委員会地域連携プロジェクト：

#### 授業づくりのブラックボックスをひらくⅡ

詳細は、全国社会科教育学会 HP (<https://jerass.jp/>) をご参照ください。

### 7. 国際委員会企画ラウンドテーブル：

#### 日本から世界に飛び出す！ 社会科の発信、交流、連携の一步を支援する

詳細は、全国社会科教育学会 HP (<https://jerass.jp/>) をご参照ください。

## Ⅲ 申し込み

「参加申し込み」「発表申し込み」は大会 HP からお申し込みください。大会 HP は、全国社会科教育学会 HP (<https://jerass.jp/>) からリンクしています。大会 HP は、6 月上旬に開設する予定です。

### 1. 参加申し込み

本大会では、申し込みを（株）コムラで取り扱います。大会 HP をご参照いただき、9 月 2 日（月）までにお申し込みください。

○大会参加費は、一般 3,500 円（当日支払いの場合 4,000 円）、大学院生 2,500 円（当日支払いの場合 3,000 円）です。事前申し込み・振込にご協力をお願いいたします。なお、本大会では懇親会は開催しません。事前振込の締切は、9 月 6 日（金）です。期限を過ぎた場合は、当日支払い扱いとさせていただきます。学部生は無料となります。事前の申し込みは不要です。当日、受付で学生証をご提示ください。ただし、発表する場合は大学院生扱いとなります。

○「若手のランチミーティング」の参加者は、弁当代（お茶代込み）として 1,000 円をいただきます。当日支払いのみ受け付けますので、お釣りのないようお願いいたします。また、当日は自らの研究テーマを A4 一枚にまとめ、10 部ほどご持参ください。なお、参加できるのは本学会の会員のみです。

○昼食は、土曜日は学内の食堂が営業しておりますので、そちらをご利用ください。日曜日は近隣のコンビニや飲食店などをご利用ください。

- 本大会では、お子様を同伴する参加者のために託児室を設置します。託児には、事前申し込みが必要です。  
(詳細は「3. 託児支援」をご参照ください。)

## 2. 発表申し込み

- 大会 HP に、申し込み用フォームがあります。ここに必要事項を入力していただき、6月28日(金)までに  
お申し込みください。大会が開催される10月は、多くの観光客が見込まれるため、宿泊場所の確保が困難になることが予想されます。そのため、参加申し込みと宿泊予約をできるだけ早めにされることをおすすめします。
- 発表の申し込みは、お一人につき「自由研究発表」「ブックトークカフェ」(どちらも個人/共同を問わず)  
3件までです。共同研究の発表申し込みは、筆頭発表者の方が行ってください。
- 発表を申し込まれた場合においても、「参加申し込み」を行っていただく必要があります。プログラムに共同研究者として掲載される方は、全員「参加申し込み」を行っていただくとともに、大会参加費をお支払いください。
- 「自由研究発表」の申し込みをされた方は、発表要旨集録の原稿執筆をお願いします。フォーマットは大会 HP をご参照いただき、作成してください。要旨原稿の締切は7月29日(月)です。合わせて発表資料の作成をお願いします。発表資料の締切は9月29日(日)です。
- 「ブックトークカフェ」の申し込みをされた方は、発表要旨集録と発表資料の作成は必要ありません。当日、資料の配付をしていただいても、かまいません。
- 資料に個人情報を載せる場合は、事前に関係機関の許可を得てください。個人情報の掲載に関わる不利益が生じた場合、本学会は一切の責任を負いません。

※本大会では、プログラム・発表要旨集録・発表資料をオンラインで掲載します。場所は、大会のHPです。  
プログラムは9月上旬、発表要旨集録と発表資料は10月上旬を予定しています。閲覧するためには、パスワードが必要です。パスワードは、参加申し込みをされた方にお伝えします。

## 3. 託児支援

- お子様を同伴する参加者のために、鹿児島市で営業している業者に託児を委託し、会場付近に託児室を設置します。是非、ご利用ください。なお、2日目(日曜日)については業者がなく、大会で独自に設定するため、相応の自己負担をお願いする場合があります。予め、ご了承ください。
- 託児委託先と託児室の場所については、安全性確保の観点から申込者のみお伝えいたします。
- 設置時間は、1日目が8:00~18:00、2日目が8:00~16:30です。
- 対象は、学会参加者の生後3ヶ月から小学校6年生までのお子様です。
- 託児は事前の申し込みが必要です。申し込みは、参加申し込みの「託児申し込み」欄でお願いします。確認の後、申込書等を実行委員会より送らせていただきます。
- 参加事前申込の締切日である9月2日(月)までに申し込みください。託児に関するご質問は、[jerass73kagoshima@gmail.com](mailto:jerass73kagoshima@gmail.com) までお願いいたします。締切日以降にやむを得ず変更やキャンセルをする場合は、すぐにご連絡ください。

## IV 問い合わせ先等

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目20番6号 鹿児島大学教育学部

担当：溝口和宏・福井駿・大野木俊文・岩崎圭祐

E-mail: [jerass73kagoshima@gmail.com](mailto:jerass73kagoshima@gmail.com)

TEL: 099-285-7111 (大学代表) \*極力、メールでお願いいたします。

### 重要な締切日一覧

(1)大会発表申し込み	: 6月28日(金) 17:00
(2)発表要旨提出	: 7月29日(月) 17:00
(3)大会参加事前申し込み・託児申し込み	: 9月02日(月) 17:00
(4)大会参加費事前振込み(クレジットカード決済)	: 9月02日(月) 17:00
大会参加費事前振込み(銀行振込)	: 9月06日(金) 17:00
(5)発表資料提出	: 9月29日(日) 17:00